

平成 26 年度 帰国隊員/青年支援プロジェクト 実施報告書		提出日	2015 年 7 月 28 日
氏名：山本 歩		実施国：ケニア	協力活動・調査研究
活動名称	ケニアの半乾燥地域での果物加工		
実施期間	2014 年 8 月から現在に至る		
(1) 申請した動機			
<p>2011 年 9 月から 2014 年 3 月まで青年海外協力隊・村落開発普及員として、ケニアの農業省のマチャコス県農務官事務所で農業普及の支援に携わった際に、地域が抱える課題を間のあたりにした。何かできることはないだろうかと考え、適正価格で農産物を買取、農家の収入向上につなげられないかと果物加工に取り組むことを決意した。ドライフルーツを製造し、日本で販売することを目標にし、自己資金で活動を開始した。ケニアでの製造体制の整備と日本での販路開拓のために行き来する渡航費を捻出するために帰国隊員支援プログラムに申請した。</p>			
(2) 活動内容概要			
<p>2014 年 3 月に隊員終了後、2014 年の 4 月にケニアで果物加工会社を設立。ケニアでの活動は、2014 年 5-7 月、8-9 月、10-2016 年 1 月、2 月から現在に至る。製造は 2014 年 12 月からマチャコスタウン近くに部屋を借りて、電気乾燥機を設置し製造を開始した。マンゴーに関しては、農村部の契約農家グループ 2 つから天日乾燥されたドライマンゴーを買取り、それらを電気乾燥機で 2 次乾燥させて包装し製品化。フルタイムの製造スタッフ 2 名を雇用し、2-4 名の日雇いスタッフが製造に関わっている。ケニア国内の一部のスーパーマーケットと日本での 1 つの取引先に 2015 年 7 月下旬に輸出し、秋以降にもう一社のテスト販売が始まる予定。</p>			
(3) 活動の成果・苦労した点・反省点等			
<p>活動の成果—2 つのグループから 600kg 以上のドライマンゴーを買取、支払い額は 370,000ksh 以上になった。収入をグループにもたらしただけでなく、品質を向上するために現場に足を運び、加工指導を何度も行ったことにより、グループの商品の品質が目に見えて改善された。ひとつのグループからは、他の取引先からも高値で買い取ってもらうことができ、前年度は利益がでなかったが今年度は利益が上がったという報告を受けている。別のグループからは、County(日本の県にあたる)のオフィサーが視察に来たときに、輸出用に買い取ってくれる会社があるということを知ったところ、設備や衛生面の改善のための支援をしてもらえることになったという報告があった。彼女たちが懸命に取り組んできた結果といえるだろう。</p> <p>苦労した点—私たちにとって初めての製造となったため、生産や輸送の工程での変色などによるロスが想定以上に大量にでた。改善するためにグループに出向き、変色を避けるための方策を伝えた。頻りにグループを訪問し、品質を確認することに時間を費やした。その後、ロス量は軽減することができた。ただ、一次乾燥終了時の水分含量や厚さなどにばらつきがでるなど品質が安定したといえるレベルには到達しなかった。</p> <p>反省点—ケニアで食品輸出に必要な登録に関する知識が十分でなかったため、登録手続きに時間が掛かってしまい、輸出が遅れてしまったこと。</p>			
(4) 今後のプラン			
<p>今後も製造・販売を続けていき、日本とケニアでの販売拡大に取り組んでいく。ビジネスと地域社会への貢献を両軸に持続的な成長を目指す。日本人にもあと 1, 2 名加わってもらい組織の体制を固めていくことと、安定的な製造を実現するために改善していく。</p>			